

「ホリスティック・アート コラボレーション」

杉本康希

<ワークショップ>

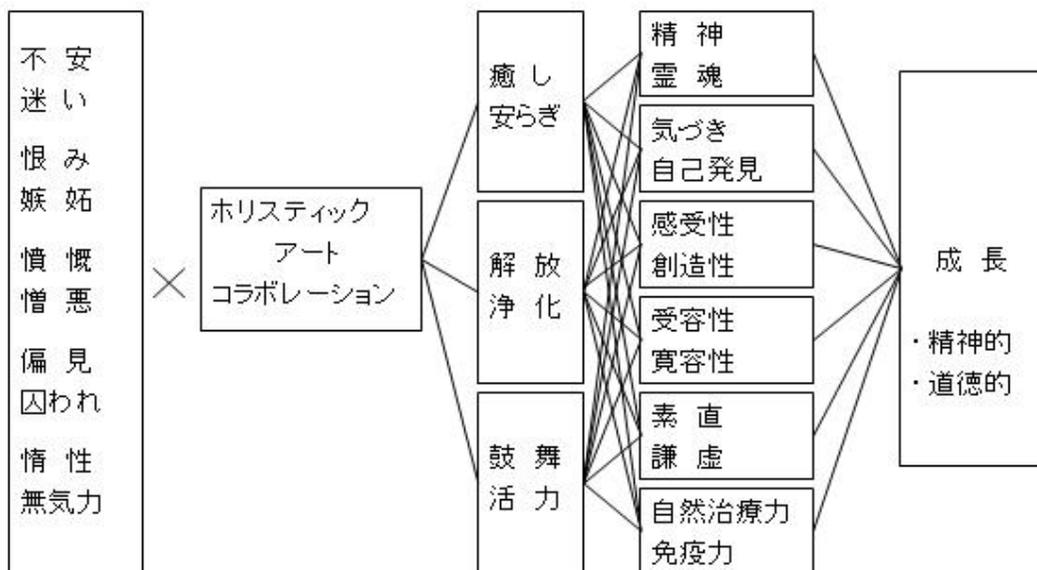
今回、ワークショップとして公開した「ホリスティック・アート コラボレーション」は、前回第16回 ABS 大会での同名の研究発表内容を実際に体験してもらい、草の根における一般の個人が行う芸術的表現が精神活動の活性化にどのような効果をもたらすかを実感していただくことを目的に実施しました。

具体的には、ワークショップ体験を通して心が癒され、解放され、鼓舞され、やがて自己に気付き、素直で謙虚で創造性豊かなり、自己変革を果たすことです。これは、まさに精神的成長へのベースであり、ひいては理想社会の実現を目指す意識の裏づけとなるでしょう。

そこで、前回収録できなかった「ホリスティック・アート コラボレーション」の効果につき、概要を改めて紹介しておきます。ルビ・インスティテュートにおいて述べている通り、草の根レベルの芸術を促進することにより、バハイの大業と人類への奉仕への道を歩もうという信者にとって道徳的、精神的な力を高めることができると記されています。

下記の図表は、精神的、心理的なテーマの問題解決プロセスを図式としてまとめたものです

ホリスティック・アート コラボレーション

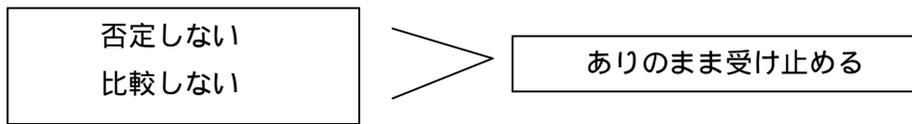


草の根における芸術促進 = 「ホリスティック・アートコラボレーション」は、バハイのスタディー・サークルをはじめ、ソーシャルナイト、フィースト他、さまざまな日常活動の中で、いつでも、どこでも、だれでもが自分なりのアレンジで実施可能なものです。

参考までにルビ・インスティテュートに載っている芸術的表現に関する記述を紹介しておきます。

…すでにお気づきでしょうが、この章の学習を通して皆さんに求められていることは、劇作家、詩人、音楽家である必要はありません。また、スタディー・サークルは、美術や工芸を通じて生計を立てられるよう訓練する場でもないので。インスティテュートの根本的な目的は、学習者を精神的、かつ道徳的に力づけることです。学習者を様々な芸術的表現の形態に慣れさせるのもこのプロセスの一部なのです。皆さんは、この章で述べたような方法で、草の根レベルで芸術を促進することにより、美にひきつける力やインスピレーションが流れ出る創造的経路を開くことができるのです。(ルビ Book 7「奉仕の道を歩もう」, 第3章)

さて、今回のワークショップは1時間という時間的制約があつたので、「絵画」と「音楽」の2つのジャンルに絞り、個別にアート表現を体験してもらうことにしました。先ず、ワークショップを体験するに当たり、参加者全員に、お互いに相手の表現された作品に対しては下記の3つの約束をしてもらいました。



この約束が守られ、参加者は感じたことを自由に、ありのまま表現することが可能となります。

1. イメージ画ワークショップ

参加者は2グループに分かれて座る。

テーブルの上には画用紙とクレヨンを用意する。

テーブル上にローソクを立て灯をともし

照明は消す。

ローソクの灯を3分間じっと眺めてもらい、心に浮かんだイメージをありのまま自由に紙に描いてもらう。

各自、絵はどんなイメージで描いたかメモしておく。

順番に絵をメンバーに見せる。

メンバーは見た絵のイメージをメモしておく。

書いたメモを順に発表する

体験の結果：同じローソクの灯を見て描いた絵も、絵を見て感じたイメージも、全員の感じ方はそれぞれ異なっていたことを通し、多様性を実感することができた。

2. 三つの音ワークショップ

ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ドをピアノでゆっくり繰り返す。

8音の中から好きな音を3音選び、5線譜に書く。

各自が選んだ3音を順に声に出す。……メロディーになる。

各自が選んだ3音を全員同時に声に出す。……和音になる。

体験の結果：各自が思い思いに選んだ3つの音ですが、繋げると一つのメロディーになり、同時に発声すると一つの和音になることを体験して、和合の具体例を感じることができました。

引用文献

ルビ Book 7「奉仕の道を歩もう」(2005).久留米:日本バハイ人材開発インスティテュート.